

## 第4章 まとめ

### 4.1 出版社系電子書籍の刊行実態

今回実施した、日本書籍出版協会および出版流通対策協議会加盟出版社へのアンケート調査「日本における電子書籍の流通・利用・保存に関する実態・意識調査」によって、電子書籍の刊行について次のような実態が明らかになった。

#### ■電子書籍の刊行状況

現在、何らかの電子書籍を刊行している出版社が 27.1%、かつて刊行していたが現在は手がけていない出版社が 1.2%、刊行していない出版社が 71.8%と、刊行していない出版社の方が圧倒的に多い。そして電子書籍の刊行状況と出版社が扱っている書籍の分野には相関関係があまりなく、刊行規模が影響していると考えられる。

つまり年間新刊図書刊行規模が大きな出版社ほど電子書籍を刊行している。

#### ■電子書籍の刊行実績

電子書籍を刊行している、あるいは過去に刊行していた出版社では、電子書籍で提供しているメディアは「CD-ROM・DVD-ROM などパッケージ系電子出版物」63.9%、「PC 向け」40.3%、「携帯電話向け」31.9%、「電子書籍専用端末（Σブック、LIBRIe など）」19.4%、「ゲーム機（DS, PSP, iPod など）」9.7%、「その他」12.5%となっている。

すなわち現時点ではパッケージ系電子出版物がオンライン系電子書籍を刊行実績において上回っている。

#### ■電子書籍の提供開始年

出版社の電子書籍の提供開始年については、「CD-ROM・DVD-ROM などパッケージ系電子出版物」では「1997 年以前」が最も多く、「2006 年以降」に提供を開始した出版社は少ない。「携帯電話向け」では「1998 年～2003 年」、「2008 年以降」に提供を開始している出版社が多い。「電子書籍専用端末」では「2004 年～2005 年」に提供を開始した出版社が多いが、これ以降新たに提供を開始した出版社はない。「ゲーム機、iPod など」では 2006 年以降に提供を開始した出版社が最も多くなっている。

これらのことから電子書籍を閲覧するための端末は、従来のパッケージ系電子出版物や電子書籍専用端末から、携帯電話、あるいはゲーム機、iPod などのデバイスに移行している様子が窺える。また PC 向けの提供開始年は「2006 年以降」が最も多く、「1998 年～2003 年」「2004 年～2005 年」がほぼ均等になっている。

## ■2007年（1月～12月）追加提供タイトル数

出版社が2007年1月～12月に追加提供した電子書籍のタイトル数は「電子書籍専用端末」が平均追加提供タイトル数は32.5タイトルと最も多く、次いで「携帯電話向け」が平均26.1タイトルとなっている。

## ■現在提供中の総タイトル数（概数）

出版社が現在提供中の電子書籍の総タイトル数では「電子書籍専用端末」が平均324.4タイトルと最も多く、次いで「携帯電話向け」が平均189タイトル、「PC向け」平均170.4タイトルとなっている。

つまり刊行実績と異なり、オンライン系電子書籍がパッケージ系電子書籍を現在提供点数では上回っている。

## ■力を入れているメディア

出版社が力を入れている電子書籍のメディアを集計した結果をまとめると、出版社が力を入れているメディア第1位では「CD-ROM・DVD-ROMなどパッケージ系電子出版物」が最も多く、次いで「PC向け」、「携帯電話向け」の順である。一方第2位では「PC向け」が最も多く、次いで「パッケージ系」「携帯電話向け」が同率で並んでいる。

## ■電子書籍サービスを手がけることになったきっかけ

出版社が電子書籍を手がけることになったきっかけは、出版社が力を入れているメディア第1位、第2位とも、「社内の企画」が最も多い。

## ■主たるコンテンツ分野

出版社が提供する電子書籍のコンテンツ分野は「その他」を除いて「ノンフィクション」が最も多く、次いで「フィクション」、「コミック」、「写真集」の順となっている。

## ■コンテンツの元の形態とコンテンツの電子化を担当している業種

出版社が提供する電子書籍のコンテンツの元の形態と力を入れているメディアとの関係を見ると、「携帯電話向け」と「ゲーム機、iPodなど」では、「出版用に作成した電算組版/DTPデータ」が最も多いが、「CD-ROM・DVD-ROMなどパッケージ系電子出版物」や「PC向け」では、「紙媒体からのデジタル化」が最も多くなっており、各メディアにより、コンテンツの元の形態に違いが見られる。

## ■エンド・ユーザーに提供している電子版コンテンツのフォーマット

出版社がエンド・ユーザーに提供している電子版コンテンツのフォーマットについては、「PDF形式」が最も多く、次いで「テキスト形式」、「HTML形式」、「XMDF形式」、「.BOOK

形式」、「コミックサーフィン形式」、「FLASH 形式」、「携帯書房形式」の順となっている。

なお力を入れているメディア第 1 位に着目すると、「CD-ROM・DVD-ROM などのパッケージ系電子出版物」や「PC 向け」では「PDF 形式」の割合が最も多いが、「携帯電話向け」や「電子書籍専用端末」では「XPDF 形式」の割合が最も多くなっており、メディアによって採用されているフォーマットに違いがあることが分かる。

#### ■エンド・ユーザーに提供している電子版コンテンツの保護方法

出版社がエンド・ユーザーに提供している電子版コンテンツの保護方法では、「複製の限定や禁止の設定」が最も多く、次いで「利用方法・利用期限の限定」、「電子透かしなどの埋め込み」となっているが、「特に対策を施していない」という回答も少なくない。割合を算定すると、1 割程度の出版社ではコンテンツ保護の対策が講じられていないことが分かる。

#### ■コンテンツの有償/無償

出版社が提供する電子書籍のコンテンツの提供について、力を入れているメディア第 1 位で「有償」が 94.0%、第 2 位では 88.9%、いずれも圧倒的に「有償」と回答した出版社が多い。

#### ■ビジネスモデルとしての電子書籍の見通し

ビジネスモデルとしての電子書籍の現時点における見通しについては、力を入れているメディアの第 1 位、第 2 位ともに、「積極的な展開を図りたい」が最も多く、以下「静観している」、「懐疑的に感じている」、「わからない」となっている。

なお「CD-ROM・DVD-ROM などパッケージ系電子出版物」や「電子書籍専用端末」では「静観している」との回答の割合が「積極的な展開を図りたい」とする割合よりも多い、もしくはほぼ同等といった結果になっているが、「PC 向け」や「携帯電話向け」では逆に「積極的な展開を図りたい」との回答の割合が、「静観している」の割合をかなり上回る結果となり、メディアにより電子書籍の見通しに差があることが窺える。

#### ■電子書籍への関心状況

電子書籍を刊行していない出版社は、「刊行を検討していない」(64.5%)と電子書籍分野への進出には慎重な姿勢となっている。

#### ■書籍の一部分を電子的に検索、閲覧できるサービスへの参加状況

書籍のテキスト検索への参加状況は、「参加していない」が最も多く、次いでアマゾン「なか見！検索」、グーグル「ブック検索」、その他のサービスと続くが、電子書籍を刊行している出版社の方が刊行していない出版社より参加率が高い傾向が見られる。

## ■電子書籍の普及と紙媒体への影響

電子書籍が普及するにつれ、紙媒体書籍が売れなくなると考える出版社は、「その通りだと思う」(10.2%)、「やや思う」(37.6%)を合わせて47.8%と約半数を占め、「あまり思わない」(33.7%)、「全く思わない」(9.8%)の43.5%をやや上回っている。

## 4. 2 把握することが困難な非出版社系コンテンツの電子書籍サイトの実態

国内で提供されている電子書籍のコンテンツは出版社系だけではない。例えばインタビュー調査を行った「魔法のiらんど」が運営する「魔法の図書館」のように無料でコンテンツを提供しているサイトが存在する。

### ■魔法のiらんど

「魔法のiらんど」は、携帯電話やPCから無料でホームページが作成できるサービスであり、このサービスによってブログ、掲示板、プロフィール、そしてケータイ小説が生まれるきっかけとなったBOOK(小説執筆機能)が提供される。

### ■魔法の図書館

「魔法のiらんど」のサービスによって作られたケータイ小説の作品は「魔法の図書館」で読むことが可能で、今一番読まれているケータイ小説が分かる「ケータイ小説ランキング」、ケータイ小説を探せる「BOOKナビ」、話題の作品について語ることができる各種「掲示板」、自分の作品をアピールできる「Myケータイ小説宣伝板」などがあり、作家であるユーザーの活動の支援と読者であるユーザーの楽しみ方を提供しているのである。

「魔法の図書館」には100万タイトルのケータイ小説があるというが、これは「BOOK」(小説執筆機能)に登録したID数が根拠となっている。「BOOKナビ」に登録され、検索可能になっている作品数は約10万タイトルである。

「魔法の図書館」にアップロードされているケータイ小説作品の「版」と「点数」の概念は複雑である。なぜなら作品は作家自身が運営管理するホームページ上で公開されているため、作家自身がいつでも作品を書き始めたり、また書き直したりしたりすることが可能である。作品がすべて完結してから公開するケース、また途中段階のものでも随時公開するケースがあり、また一つの作品を公開し、それにまつわるサイドストーリーや続編を作成したり、また急に中止して消去したりするケースがある。

### ■魔法の図書館 Plus

2006年10月、NTTドコモのiモード・FOMA向けの総合携帯電子書籍サイトとして「魔法の図書館 plus」が開設され、書籍化されたケータイ小説を中心に小説やコミックを電子書籍として有料配信(月額315円と月額525円の2種類のメニュー)を行っている。「魔法